

日本哲学史研究

第 10 号

《特集・間文化（跨文化）という視点から見た東アジアの哲学》

西田幾多郎の哲学

——トランスカルチュラル哲学運動とその可能性……………張 政遠……………一

西田幾多郎とT・H・グリーン

——トランス・カルチュラル哲学の視点から……………林 永強……………二〇

哲学と宗教の間

——唐君毅と西谷啓治における近代性をめぐる思索……………黄 冠閔……………三九

西田によるヘーゲル生成論批判の射程……………熊谷 征一郎……………六五

場所の論理と直観

——西田幾多郎『働くものから見るものへ』と『一般者の自覚的体系』

……………太田 裕信……………八九

九鬼周造における現象学と形而上学の交わりの問題

……………シモン・エベルソルト……………一〇九

2013年10月

京都大学大学院文学研究科
日本哲学史研究室紀要

『日本哲学史研究』バックナンバー目次

第1号 (2003)

藤田正勝「和辻哲郎「風土」論の可能性と問題性」

伊藤徹「幻視された「自己」」

ブレット・デービス「退歩と邂逅——西洋哲学から思索的対話へ——」

杉本耕一「西田哲学の「転回」と「歴史哲学」の成立」

第2号 (2005)

平田俊博「日本語の七層と現象学的優位——日本語で哲学する——（前）」

古東哲明「臨生する精神——日本人の世界観——」

宮野真生子「美的生活の可能性と限界——柳宗悦「第三の道」とは何か——」

藤田正勝「西田哲学と歴史・国家の問題」

第3号 (2006)

片柳榮一「アウグスティヌスと西田幾多郎」

林鎮国「西谷啓治——空と歴史的意識をめぐって——」

岡田勝明「日本思想における二重言語的空間——西田幾多郎の場合——」

ステフェン・デル「真の自己の否定性——上田閑照の「自己ならざる自己」の現象学——」

第4号 (2007)

清水正之「哲学と日本思想史研究——和辻哲郎の解釈学と現象学のあいだ——」

藤田正勝「西田幾多郎の国家論」

杉本耕一「歴史の世界における制作の立場——後期西田哲学の経験的基盤——」

ジェラルド・クリントン・ゴダール「コケムシから哲学まで

——近代日本の「進化論・生物学の哲学」の先駆者としての丘浅次郎——」

《書評》高坂史朗

藤田正勝著『西田幾多郎—生きることと哲学』

第5号 (2008)

岡田安弘「西谷啓治における「科学と宗教」の現代的意義

——生命科学の危機的な諸問題を前にして——

黄文宏「西田幾多郎の宗教的世界の論理——新儒家の宗教観との比較を兼ねて——」

シルヴァン・イザク「西谷における自他関係の問題」

守津隆「西田哲学批判としての「種の論理」の意義」

ダニエラ・ヴァルトマン「「絶対無」としての「絶対的生」とは何か

——ミシェル・アンリと仏教あるいは田辺元との対話——

第6号 (2009)

伊藤徹「過去への眼差し——『硝子戸の中』の頃の夏目漱石——」

上原麻有子「翻訳と近代日本哲学の接点」

城阪真治「下村寅太郎の科学的認識論——表現作用としての「実験的認識」について——」

日高明「中期西田哲学における質料概念の意義」

濱太郎「西田における形の生命論」

第7号 (2010)

米山 優「モノドロジーを創造的なものにするこ

——〈モノドロジックでポリフォニックな日本の哲学〉に向けて——

細谷昌志『『マラルメ覚書』と「死の哲学」——田辺哲学の帰趨——」

林晋「数理哲学」としての種の論理——田辺哲学テキスト生成研究の試み (一) ——

呉光輝「西田哲学と儒学との「対話」」

杉本耕一「京都学派の仏教的宗教哲学から「倫理」へ」

第8号 (2011)

高橋文博「和辻哲郎の戦後思想」

田中美子「個性の円成——和辻哲郎「心敬の連歌論について」を読む——」

熊谷征一郎「存在と無の同一」としての「生成」の意味をめぐる

——西田によるヘーゲル生成論批判の妥当性と意義——

《書評》水野友晴 井上克人著『西田幾多郎と明治の精神』

第9号 (2012)

行安茂「西田幾多郎とT・H・グリーン」

林晋「澤口昭聿・中沢新一の多様体哲学について

——田辺哲学テキスト生成研究の試み(二)——」

岡田安弘「現代生命科学の発展と西田の生命論」

ブレット・デービス「二重なるく絶対の他への内在的超越」

——西田の宗教哲学における他者論——」

執筆 者

張政遠

香港中文大學講師

林永強

東京大學特任准教授

黃冠閔

台灣中央研究院助研究員

熊谷征一郎

京都大學研究國際部非常勤講師

太田裕信

京都大學・奈良県立大學非常勤講師

シモン・エベルソルト

京都大學文學研究科研究生

日本哲学史研究 第十号

二〇一三年一〇月二一日印刷

二〇一三年一〇月二五日發行

発行者

京都大學大学院文學研究科

日本哲学史研究室

京都市左京区吉田本町

印刷所

藤原製本株式会社

京都市西京区牛ヶ瀬新田泓町六

STUDIES
IN
JAPANESE PHILOSOPHY

NIHON TETSUGAKUSHI KENKYU

Vol. 10

October, 2013

“East Asian Philosophy from a Cross-Cultural Perspective”

Nishida Kitarō’s Philosophy: Transcultural Philosophical Movement and its Possibility.....Cheung Ching-yuen

Nishida Kitarō and T. H. Green: From the Perspective of Transcultural Philosophy.....LAM Wing Keung

Between Philosophy and Religion: Tang Junyi’s and Nishitani Keiji’s Thoughts on Modernity.....HUANG Kuan-min

The Significance of Nishida’s Critique of Hegel’s Concept of Becoming.....KUMAGAI Seiichirō

The Logic of Place and Intuition: Nishida’s Philosophy in “From Acting to Seeing” and “The Self-aware System of Universals”.....OTA Hironobu

The Intersection between Phenomenology and Metaphysics in Kuki’s Philosophy.....Simon EBERSOLT

DEPARTMENT OF JAPANESE PHILOSOPHY
GRADUATE SCHOOL OF LETTERS
KYOTO UNIVERSITY

Kyoto, Japan